



### エゾリス [ *Sciurus vulgaris orientis* ]

今年の紅葉は遅れ気味であった。11月に入り漸く鮮やかに紅葉したかと思えば、あっという間に散ってしまった。

葉を落とした木々たちは、種子を遠くへ運んでもらうため、彩り鮮やかな実をたわわに実らせて小鳥たちを誘っている。

湖では、冬の渡りで立ち寄るオオハクチョウや雁のほか、ダイサギやユリカモメたちも増えて賑わいをみせてきた。

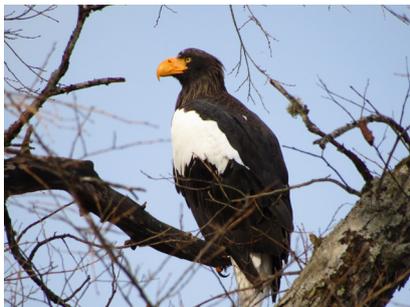
冬眠をしないことで知られるエゾリスたちは、厳しい冬を前にカラマツの松ぼっくりを懸命に食べて体力を養っていた。



## 塘路フィールドノート【10/15~11/14】

### 【野鳥】

冬を前に水鳥たちで賑わう塘路湖では、漸くオオワシも確認された。ダイサギやユリカモメが集団で飛翔し、雁の仲間たちの声が湖畔をこだまする。



オオワシ (塘路湖畔)

冬を代表する大型の猛禽類。その風格は威厳すら感じる。国の天然記念物。



シロハラゴジュウカラ (塘路湖畔)

ホウノキの鮮やかな紅い実を、懸命に食べていた。



タンチョウ (釧路川)

川の浅瀬で、嘴を使い器用に貝類などを食べているようであった。



エゾヤマセミ (釧路川)

寒い季節になっても、川にダイビングをして小魚を採っていた。カワセミの仲間。



ダイサギ (サルルントー)

冬の塘路湖周辺に現れる大型のサギ。集団で行動する。



ハクガン (塘路湖畔)

センターの前に、突然飛来した幼鳥。嘴が汚れる程に芝地をつついてきた。



オオバン（釧路湿原）

今年が多い印象。20羽近い群れが確認された。クイナの仲間。



オオヒシクイ（シラルトロ湖）

こちらも初冬を代表する水鳥。大型の群れが目立つようになってきた。



ユリカモメ（塘路湖畔）

基本留鳥のようだが、内陸にある塘路湖では冬に増えるカモメの仲間。

## 【植物・菌類】

先月まで進みの遅かった紅葉も、カエデ類を中心に、綺麗に色づいてきました。春から夏にかけての鮮やかな彩りとは、異なるが、黄色い木の実や紅い葉は、やはり秋を感じさせる。



イタヤカエデ（板屋楓）

美しく紅葉をするという意味では、代表的な木。カエデ科。



ヤチダモ（谷地だも）

湿原に生えるタモの木。果実は翼状でアオダモに比べ地味な色合い。モクセイ科。



ツルウメモドキ（蔓梅擬）

鮮やかな紅葉の季節が終わると、湿原の秋に彩りを残す。ニシキギ科。



ニシキギ（錦木）

センターの周辺では、最も鮮やかな紅い色を放っていた樹。木の実も紅く鮮やか。



スッポンタケ（釧路湿原）

スッポンの首によく似た子実体からこの名がある。晩秋の森にも多く見かける。



ヤマブシタケ（山伏茸）

倒れたミズナラの幹に生えていた。針を垂らしたような不思議な形をしたキノコ。

## ◎晩秋の湖畔で自然散策

10月22日（土）は、塘路湖畔で晩秋のフィールドウォッチングを実施しました。

10月後半に入り色付く木々が多くなったフィトンチッドの森と、渡り鳥が飛来するようになった塘路湖畔を、アイヌの知恵や周辺の歴史を紹介しながら散策した。前半はフィトンチッドの森を散策しながらフィトン（phyton：植物）チッド（cide：殺す）の効果や、緑葉から紅葉への変化するメカニズムを解説。また、塘路湖観光の最盛期の豆知識もちりばめながら、ミズナラが過去に北海道から欧米へ大量輸出されていたことや、ヤチダモとアオダモの用途の違いなど説明しながら散策をしました。実をつけていた植物は毒草のコウライテンナンショウやアイヌの弓矢の弦に使われたツルウメモドキ、エゾニワトコ、ヤマブドウなど。

後半は塘路湖畔を歩きながら野鳥を観察し、残念ながらトビ以外の猛禽類は確認できなかったが、アオサギやオオハクチョウ、カモ類、ヒヨドリを観察できました。

参加者 7名



エゾニワトコ



カラコギカエデ



ツルウメモドキ

## ◎今年のキノコ観察を振り返る

11月5日(土)は、塘路湖エコミュージアムセンターにて、初冬のキノコ講座を行いました。講座では、スライドを使って8月・9月の観察会で観られたキノコ類を紹介しながら、それぞれのキノコについて、その同定のポイントや特徴について学びました。

また、スライド以外にも、キノコの乾燥標本を使った解説もなされ、参加者の皆さんは、滅多に観られないキノコの標本を手にとったり、講師に質問をしたりしながら、キノコの魅力を楽しみました。参加者11名



## 12月の自然ふれあい行事

事前の申込が必要です。

### シマエナガフィギュアを作ろう

[日 時] 12月3日(土) 13時～15時  
[定 員・参加料] 10名 100円(材料費)  
[開催場所] 塘路湖エコミュージアムセンター

◎問い合わせは塘路湖エコミュージアム  
センターまで

### 塘路フィールドウォッチング～初冬編～

[日 時] 12月17日(土) 10時～12時  
[定 員・参加料] 10名 無料  
[開催場所] 塘路湖エコミュージアムセンター

◎問い合わせは塘路湖エコミュージアム  
センターまで

### 湿原の「かたち」を見て歩こう

[日 時] 12月4日(日) 10時～12時  
[定 員・参加料] 10名 無料  
[開催場所] 温根内ビジターセンター

◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンターまで  
(0154-65-2323)

◆日出・日入時間 10/15(5:35,16:40). 10/31(5:54,16:16).11/14(6:12,16:00)

～編集後記～

■ 1958年の塘路湖の観光客は二千五百人程度だった。同年11月封切りした高倉健主演映画の影響で塘路湖を訪れる人は毎年増え続け、1965年には七万二千人に達する。観光客が押し寄せるようになった湖には遊覧船に貸しボート、十人乗りの円盤ボート、四人乗りの快速艇が導入された。観光用の地引網漁も行われたという。今では想像もできない光景である。時代の移り変わりを高倉健の命日11月10日に思う。

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あるこっと

☎ 088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野  
TEL: 015-487-3003 FAX: 015-487-3004  
E-mail: emc@hokkai.or.jp

Instagram  torokoemc

開館時間: 10:00～16:00

(4～10月: 17:00まで)

休館日: 毎週水曜日 12月29日～1月3日

入館無料